

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400365		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	北海道紋別郡遠軽町西町2丁目1-218		
自己評価作成日	令和5年4月24日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://snsaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0175400365">snsaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0175400365</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年5月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、平成17年1ユニットから、平成24年に2ユニットで運営し遠軽の自然に囲まれた地域に立地しています。「お年寄りが安心して、自由に、そして主人公として楽しく くらせる住まいです」を基本に職員はコミュニケーションを図り、利用者の疎外感を払拭させ利用者が中心にいることを念頭にケアに反映できるように努めています。トイレでの自立排泄や散歩、日常の役割を持って貰い利用前の生活を維持できるように管理者や職員一同アットホーム的な環境作りに取り組んでいます。地域とは、散歩時に挨拶を交わしたり、自然の中で五感を通して感じ取ることを利用者の癒しの効果になっています。食事を美味しく・楽しくを基に毎日の嚥下体操を基本に、自宅への外出を目標に歩行訓練を行い積極的な外出に備える等利用者の個々の症状・生活改善対応を支援しています。職員は過介護にならないように利用者して危険が及ぼさない限り、利用者の行動を止めないように見守ることを心掛けています。利用者個々にあった介助技術の向上を目的に利用者を理解する上で必要な利用者の病名に沿った勉強会を開催しています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	0 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて日々生活を送っています。	理念の振り返りを促すよう見やすい場所に掲示し利用者とのコミュニケーションを重視した本人本位になるよう施設長は職員に指導しています。理念はパンフレットに掲載しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも入会し、食材等も地域の商店より購入しています。	コロナ禍の中で、地域との行事交流は出来ていませんが、散歩などで挨拶等を交わしたり、花や野菜等の差し入れがあり密接に地域交流を行っています。また、地域で食材購入をしています。町内会とは回覧や運営推進議事録で情報交換を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	短期入居希望の方々も増え、地域の方々にも執着していると思われれます。また、運営会議メンバーにも地域の方にも参加して頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議を開く事が出来ず報告のみを家族等にさせてもらっている。	年6回運営推進会議は、利用者状況・行事・研修・事業所情况等を利用者家族や町内会長、包括センター担当者、役場担当者に書面報告として行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は、実地調査が有り指導を受けています。	コロナ感染予防対策、情報等では、保健所や役場と連絡を取り指導を受けています。困り事や分からない点は相談できる関係構築がなされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施しています。その他、勤務時間にも気になることがあれば声掛けをしています。	身体拘束防止委員会は、施設長筆頭に全職員が委員となる構成で、年4回の委員会と年2回の勉強会が行われています。日々の不適切な対応を見かけた場合は、適宜指導し職員会議で議題にし話し合いを設け適切な対応が出来るよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止同様に、常に心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会はありません。必要に応じてスタッフには伝えていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所には説明をして理解を頂いていると思っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議の一員に家族、地域住民等の方々に参加いただき意見交換をしています。	令和4年度は面会禁止や予約での30分程度の家族のみの面会制限、状況に応じて窓越し面会等で実施しています。家族には運営推進会議録の中で利用者の写真付で利用者の様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは、時間の許す限り話をしています。どんなことでも速やかに対応しているつもりです。	看護師が講師となり利用者の状態に合わせた研修を実施しており、利用者に反映された介護となっています。職員会議を復活し職員同志のコミュニケーションを図り、意見交換を経て運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成する時も希望を提出してもらい、各自に併せた時間帯で勤務体制を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修が無くなり、内部内での研修会を増やしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近になって研修会が行われ始め少しずつ参加機会が出来る様になってきています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時点で利用者家族等にお話を伺い安心して暮らせる支援させて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様に時間をかけてお話を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんなことを望んでいるか見極めはとても難しく思いますが、対応する中で感じていくしかないと思っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰介護にならない様に利用者と同じ向き合う。それぞれの立場を理解して日々生活をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな状況の時でも、家族と一緒に行動をするように心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年は面会等は家族のみとさせて頂いています。ご連絡を頂いた方々には家族の了解を頂いて近況報告をしていました。	家族の協力もと、墓参りや大晦日の外出・外泊を行って楽しい一時を過ごしています。理容資格の職員が利用者の髪をカットしています。孫との手紙のやり取りの支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での生活が中心でしたので、レクリエーションを基本に生活をしていました。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後数年経った方々もお声をかけて下さり、食材等々を届けてくださったりしていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どんなことでも話をして頂ける様に時間がある限り向き合うようにしています。	利用者個々が安心して過ごせるように職員は昔話等で利用者とのコミュニケーションを図り、日々の意向を言葉や表情等で確認しています。意思疎通が図れない場合は家族の意向を聞き取ることでケアに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からも情報を頂き安心して暮らせる様に努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でスタッフは情報を共有し合っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	期間が近くなるとスタッフに通達し計画内容の確認をし計画書を作成しています。	自立支援や生活維持能力、役割を含め前向きな利用者の意向を引き出すために、月1回のモニタリングを行い6ヶ月に1回を基本に介護計画の見直しを行っています。記録の整備の改善を目標としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表に利用者の状況を記入し、口頭でも伝え介護をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活状況を報告出来る立場に立っていますので、受診など家族の代理として対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数年は外泊、外出も不便な状態でしたので、季節に応じた食材等々を作り料理していました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の代理として受診をさせて頂いています。結果も報告をさせて頂き安心して頂いてもおります。	係りつけ医の受診は、事業所は家族の依頼を受け、施設看護師が対応しています。利用者の健康管理は看護師職員と訪問看護師により行われ家族の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際には、施設看護師等が対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報を提供しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点でも説明はさせて頂いております。又、状況に応じて説明を行っています。	指針の終末期における事業所の出来る事と出来ないことを十分説明をし理解を得ています。職員には実践に基づいた終末の勉強会を行い、医師の指示書に従い対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフはAED研修を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行っています。	昼夜想定で自主避難訓練・研修を実施しています。事業所は指定崩落地域であり、近隣の高齢化に伴い協力体制が整わない状態になっています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重しての声掛けを指導していますが、まだ不十分な事があるように感じています。	利用者は、基本〇〇さんで呼んでいます。人格尊厳等の権利擁護については、職員に浸透、理解するようにその都度指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人格を尊重すると同様に聞き取りが十分に出来てとは言えない様に思います。今後も努力していく必要があると思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望をお聞きする事は少ないですが、季節によっては声掛けをして散歩など誘いをしたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出・外泊の際には、季節にあった衣類を着用したりして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて食材を選び食事を提供しています。片付け等も願っています。	1週間毎に献立を施設長が作成し、利用者の状態に合わせた形態で提供しています。気温や季節に合った食事や行事食、誕生会には本人の希望を取り入れた食事内容となり、畑で収穫した食材が食卓に上り利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏らない様に献立作成を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日に3回必ず口腔ケアをしています。また、確認して仕上げも行っていきます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自時間帯を考えて声掛けをしています。	日中はトイレでの自立排泄を目指し、排泄パターンや習慣を把握してさり気なく声掛け誘導を行っています。利用者一人ひとりに合った衛生用品で不快にならないよう過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服用している薬のみに頼らず乳製品などを提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安はありますが各自に併せて、時間帯、日時は変更しています。	週2～3回を基本に、ゆったりと入浴を楽しんで頂き、困難な利用者には無理強いすることなく気分転換や職員変更などで利用者の気持ちを聞きながら支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて声掛けをして休息して頂いています。寒い日には、湯たんぽなども使用しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋変更の際には、確認をし情報を共有するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画で利用者の出来る事を計画し進めさせて頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近年は、外出先も制限され病院受診ぐらいしかできなくなっています。その中で自宅への外出などされている方々も数名いらっしゃいます。	天気の良い日には、季節の花見や太陽の丘等利用者状況に応じた散歩の仕方を行い、日光浴や気分転換、散策を楽しんで頂くようになっています。室内では、毎日の体操やレクリエーションを行い、楽しみと生活維持低下をさせない取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかい程度のお金をお預かりしております。本人により希望があれば買い物をご一緒させて頂き、必要に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望で、定期的に遠方のご家族より電話連絡があります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾燥を防ぐ為、タオルを掛けたり、花を飾りつけたりしています。	共同空間は季節毎の飾りや行事の飾りは利用者と職員が作成した作品が展示されています。快適に過ごして頂くために、ユニット毎のリビングに空気清浄器を設置し、タオルを掛けるなど乾燥を防いでいます。日中はリビングで体操やお喋り、テレビ鑑賞、歌など職員は孤立させないよう心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別に場所は用意してはいませんが各自居室を利用しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時点で馴染みのある物を持参して頂いています。	居室は、ベットやタンス等と、慣れ親しんだ家具を持ち込まれています。家族や孫の写真やカレンダーを飾りてその人らしい生活空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に行動が出来る様に目印を貼ったりしています。		